

## 中国先天複雑性心臓病児童、 台大病院で新たな希望を手に入れます

- ◆ 出典：国際医療センター
- ◆ 発表日：2009年10月07日
- ◆ 翻訳：国際医療センター
- ◆ 訳文発表：2010年01月25日

Aくんは生まれてから三ヶ月、厦門のある病院にて単心室、総動脈幹遺残症且つ僧帽弁閉鎖不全症の先天性心臓病にかかることが診断されました。その病院で中国国内では治療が不可能なため、諦めるように言われました。そして、対「一人っ子政策」用の証明書を発行するので、もうひとりお子さんを産むことを勧められました。しかし、ご夫婦は諦めることなく、Aくんが7ヶ月の時に上海にある大きな病院で検査をしてもらいました。しかし、手術治療どころか、さらなる多くの問題（心房中隔欠損、動脈弁閉鎖不全、肺動脈位置異常、卵円孔開存、心室不全）がみつかりました。それでも、ご両親は諦めなく、武漢や上海他の医学センターへ希望を求めに行きました。残念なことに、どの病院でも手術を施すのが無理だと答え、どの医者もこの子には未来が見えないと断言しました。

もはや絶望の暗闇にさいなまれたご両親は、台湾の友人の協力を得て、Aくんのカルテを台大病院国際医療センターへ送りました。そして、国際医療センターの手配で、Aくんはご両親と一緒に2009年3月に台大病院に到着し、心臓外科張重義医師に診てもらいました。すると、内臓心房錯位症候群且つ先天性複雑心臓病単独右胸心（単心房、単心室、心内膜床欠損症、弁閉鎖不全、両大血管右室起始症、肺動脈閉鎖、肺静脈還流異常症、動脈管開存症）であることが判明されました。2009年4月13日、Aくんは心臓手術を受け、肺動脈形成術及び上大静脈と肺動脈の連結が成功しました。

ご両親は台湾に来るまえに、すでに息子のため仕事も辞めて、あちこちの病院を訪ねました。ただ、どの病院からも絶望的な答えしか得られなかったため、彼らは台大病院を最後の希望だと見なしました。幸い、彼らの期待は裏切られませんでした。Aくんは台大病院で順調に手術を受け、術後の心臓超音波追跡検査結果もたいへん好調でした。顔色も活動力も以前よりよほどよくなりました。

2009年5月22日、ご一家は中国に戻りました。この一年間に体調がよければ、来年まだ台大病院へ二回目の手術を受けに来て、心臓疾患を徹底的に治療する予定です。

今回の治療はご夫婦にとって一生忘れられない体験でした。心臓外科医療スタッフの優れた技術、そして国際医療センターの親切なスタッフ、皆の協力でご一家は台大病院で新たな人生を見つけ、そして希望を手に入れました。



A くん家族全員と担当医師張重義  
医師との記念写真